

第2学年 道徳学習指導案

1組 計27人（男子12人、女子15人）
指導者 渡 邊 貴 久

1 主 題 名 注意を聞くよさは（1—（1） 節度・節制、自立）
資料名「どっきりしたこと」（学研教育みらい2年）

2 主題について
(1) 内容項目とその系統

(2) 指導内容についての基本的な立場

【低学年1—(1)】
健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

【中学年1—(1)】
自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

【高学年1—(1)】
生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。

【中学校1—(1)】
望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。

節度とは、その時々、物事を判断する上でどちらにも偏らず他者との関係が程よいことである。節制とは、自分の心を制御し、理性を働かせて他者と適度な調和を保つことである。さらに自立とは、独りよがりではなく、他者との調和の中で独り立ちすることである。ここでは、自分の生活を見直し、自分本位なわがままに気付き、他者の意見に耳を傾けることが大事なことを理解し、その考えを身に付けていくこととなる。

この期の子どもたちは、日常生活においてよいことや正しいことについて考え、わがままな行動をとっている他者に注意しようとする傾向が見られる。しかし、自分が注意を受ける際には、他者の意見や忠告を聞き入れようとせず、自分の興味の強いものや好奇心を優先するというような、思慮を欠く行動に出ることも少なくない。

そこで、本主題では、相手の話に耳を傾けることで、自分の行動の在り方や周りの人からの注意の意味を考えられるようにしていく。また、思慮を欠いた行動をせず、相手の話を聞くと自分がどのような気持ちになるのか、相手の注意を聞くことで自分自身がどのような気持ちになるのかを理解できるようにする。さらに、自分を律するための多様な考えの中から、自分が「大切にしたい考え」を見付け出し、その考えに自信がもてるようにする。これらのことにより、自分の望ましい生活のよさに気付かせるとともに自分自身を見つめ直すことができるようにすることで、思慮深く考えながら自らを節制して生活をしようとする態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

第1学年及び第2学年

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

対自分	ア 相手の注意を聞くことができる自分が嬉しい。(自分の喜び) イ 注意を聞くことのよさが分かる。(よさの自覚) ウ 自分が成長できる。(自己の成長)
対他者	エ 他者から認められる。(他者からの称賛) オ お互いに注意を聞くと信頼し合える。(他者との共感) カ お互いに気持ちよく過ごせる。(お互いの喜び)
対社会	キ みんなを困らせないですむ。(望ましい集団の形成) ク みんなが注意を大切にできると気持ちがいい。(集団の喜び) ケ 相手の意見を聞き合う学級になれる。(望ましい学級の形成)

二面性

心の葛藤

実践を阻む要因

- a 自分本位な考え
(自分がしたいことをする)
- b 自己弁護
(自分は注意をよく聞き入れる)
- c 思慮不足
(周りのことを考えない)
- d 意欲の欠如
(注意を聞き入れたくない)
- e 無関心
(注意が気にならない)
- f 好悪の判断
(人によって注意を聞く)

- | | | |
|---------------------|-----|--------------------------|
| ①他者からの注意を大切にできる（思慮） | 心構え | ②意見を聞くことができる（受容） |
| ③自分本位な行動と分かる（自覚） | | ④注意を聞ける自分になれる（成長） |
| ⑤互いの注意を聞き合える（協調） | | ⑥仲間と信頼し合える（共感） |
| ⑦他者が喜ぶ（幸福） | | ⑧過ごしやすい集団になれる（望ましい集団の形成） |

(4) 本主題に関連する体験活動等

【事前】	【事後】
☐ 学級レクリエーション (友達の注意を聞いていたか) ☐ 清掃活動 (リーダーの言うことを聞いていたか) ☐ 朝・帰りの会 (教師の注意を聞いていたか)	☐ 学級レクリエーション (友達の注意を聞くことができるか) ☐ 清掃活動 (リーダーの言うことを聞くことができるか) ☐ 朝・帰りの会 (教師の注意を聞くことができるか)
【本時】 11月「注意を聞くよさは」〔1－(1) 節度・節制, 自立〕 『どっきりしたこと』 ※他者からの注意を大切にできる (思慮) (経験の想起) (よりよい生き方を目指した行動)	
【本時と関連する道徳の時間】	
5月「わがままをせず人の意見を聞こう」〔1－(1) 節度・節制, 自立〕 『新しい自転車』 ※意見を聞くことができる (受容) 9月「後で後悔しないために」〔1－(1) 節度・節制, 自立〕 ※は、重点化を図る考え 『ノートひこうき』 ※自分本位な行動と分かる (自覚)	

3 子どもの実態

(調査人数 27人 重複あり 平成26年9月12日)

(1) 本主題に関する経験場面①

注意を聞くことができた経験	人数
・ 友達から「静かにして。」と注意されたとき	10
・ 先生に注意されたとき	8
・ お母さんに怒られそうなとき	7
・ 遊んでいるとき	2

(2) 本主題に関する経験時の気持ち

注意を聞くことができた時の気持ち	人数
・ すっきりした気持ち	15
・ また注意を聞こう	8
・ うれしい気持ち	3
・ これからきちんとしよう	1

(3) 本主題に関する経験場面②

注意を聞くことができなかった経験	人数
・ 遊びやしたいことをしているとき	13
・ 宿題をしないと言われたとき	4
・ 決まりやルールを守らなかったとき	4
・ 静かにしないといけないとき	3
・ 嫌いな食べ物を食べないといけなかったとき	2
・ ない	1

(4) 本主題に関する経験の理由

注意を聞くことができなかった理由	人数
・ 他のことをしたかったから	11
・ 聞こうと思わなかったから	5
・ 面倒だったから	5
・ 気持ちが盛り上がっていたから	4
・ 注意されていることに気付かなかったから	1
・ ない	1

(5) 道徳的価値の意義

注意を聞くことはなぜ必要か	人数
・ 自分の悪いことに気付かせてくれるから	9
・ 怒られるから注意を聞く	6
・ 大事な話で後に困るかもしれないから	6
・ 聞き合うとお互いがいい気持ちになるから	4
・ 聞くことで安全に過ごせるから	1
・ 大人になって困るから	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

注意をきくために、どんな気もちをもつか	人数
・ しっかり相手の注意を聞こう	15
・ 間違っていることを正してくれる	6
・ 注意をしてくれてありがとう	3
・ 怒られずにすむ	2
・ 相手が自分のことを思って注意を言ってくれる	1

(1)から、注意を聞くことができたときとして、授業や集会などの行事の際に友達の注意を聞くことができたり、教師や親などの身近な人からの注意を聞くことができていたりしている経験を多く挙げている。(2)から、そのときの気持ちとして、「すっきりした気持ち」、「また注意を聞こう」と前向きに注意を受けとめようとしている考えが多く見られる。(3)から、注意を聞くことができなかった場面として、自分がしたいことをしているときや、しようとしているときに注意をされると聞くことができなかったという経験が多く見られる。そのできなかった理由は、(4)からその時にしていることを優先したいために、注意を聞こうとしない傾向が見られる。(5)の道徳的価値の意義については、「自分の悪いところに気付かせてくれる」という自分を省みる機会となり、自分の成長につながると考える子もいれば、「怒られるから」など注意のよさに気付かず、その場だけよくしようとして注意のよさを受け入れようとしない子がいることが分かる。(6)の道徳的価値に対する心構えでは、「ちゃんと相手の注意を聞こう」「間違ったことを正してくれる」という考えが多かった。

この調査を踏まえ、本時では、まず「気付く」過程で学級の誰もが体験したことがある自分が注意をしても聞いてもらえなかったり、自分が注意されても聞かなかったたりした具体的場面を想起し、注意を聞くことが難しい時が誰にでもあることに気付くことができるようにする。そうすることによって、子どもたちに主題に関する場面をより身近に考えることができるようにしていきたい。次に、「見つめる」過程では、中心発問の場面(5)にあるように、「怒られる」という他律的な傾向を、前向きな考えに方向付けることが大切と考え、「強く言われたから注意を聞く。それだけでいいのかな」と問い返す。そのことで「他者からの注意を大切にできる」という本時の重点化を図る考えに結び付け、注意を聞くことのよさを自覚し追求できるようにしていきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

子ども祭りに行きたい気持ちを抱きながら信号待ちをしていたけんとみくは、男の人に二人の自転車が交差点にはみ出していることを注意されたが、祭りに早く行きたい二人は下がることをためらった。再度注意され二人は、自転車を降り、少し下がった。その直後にダンプカーが交差点の角を曲がってきた。下がっていなければ、けんとみくははねとばされるところだった。二人は、どきどきした気持ちをもちながら、注意を聞かなかったらどうなったのかということを振り返り、自転車をゆっくりとこぐのだった。

(2) 資料の分析・反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子どもの反応
1 交差点で、信号が青になるのを待つけんとみく【焦り】	a 自分本位な考え(自分がしたいことをする) c 思慮不足(周りのことを考えない)	- 早く子ども祭りに行きたい。 - 信号が早く青になってほしい。 - 早くゲームをしたい。 - 遅れたら嫌だ。
2 男の人から注意を受けるけんとみく【心の弱さ】	a 自分本位な考え(自分がしたいことをする) d 意欲の欠如(注意を聞きたくない) e 無関心(注意が気にならない)	- うるさいな。 - 少しくらい大丈夫だ。 - 早く行きたい。 - 注意を聞き流そう。 - 今は注意を聞きたくない。 - 注意は気にならない。
3 注意を聞かなかったことを振り返るけんとみく【迷い・後悔】	イ よさの自覚(対自) カ お互いの喜び(対他) ク 集団の喜び(対社) ①思慮 ②受容 ③自覚 ④成長 ⑦幸福	- これからも注意を大切にしよう。 - 注意を聞けばよかった。 - おじさん注意をしてくれてありがとう。 - 自分がもっと気を付ければよかった。 - おじさんはいい人だった。 - 注意を大切にできれば気分がいい。

この資料は、自分たちの行為を男の人に注意されても素直に聞けず、直後にダンプカーが近くを通り過ぎ、素直に注意を聞けなかったことを省みる主人公けんとみくの話である。注意を十分に聞かずに自分本位の考えを通すという内容は、相手の注意を十分に聞き入れようとしていない子どももいる本学級にとって身近な内容であり、共感しやすい資料であると言える。子どもたちは、男の人の意見を聞かず自分本位の考えを通そうという主人公と自分の経験を照らし合わせ、これから注意を一步立ち止まって考えるとともに、自分のために役立てたいとするような実践意欲を高めることが期待できる資料である。

5 指導に当たって

- 「気付く」過程では、よりよく生きるためにはどんな考えを大切にすればいいかという「自分事の問い」をもつことができるように、他者から注意をされた自分の経験をしっかりと見つめさせることが大切となる。まず、注意を聞くことに関する共通場面をプレゼンテーションソフトを使って示し、自分のこれまでの行いを見つめることができるようにする。次に、注意を聞くことに関する事前アンケートを基に、子どもたち一人一人が自分自身の経験を振り返ることができるようにする。そして、それらの意識と行動の矛盾から問題意識を高めて、「もっと注意を大事にするための『大切にしたい考え』は何か」という本時を貫く「自分事の問い」をもつことになる。
- 「見つめる」過程では、扱う資料の主人公や一緒に学び合う友達との考えの差異から生まれる「自分事の問い」を大切にする。子どもたちは、役割演技等を通して「自分も主人公のように考えることができるのか」「自分と違う考えが他にもあるのか」というような、「自分事の問い」をもつことができるようにする。そして、「自分づくりカード」を活用し、友達との「学び合い」の中で答えを考えていくこととなる。この問いの追求が、本時を貫く「自分事の問い」の答えを見いだすことにつながる。
- 「深める」過程では、「自分づくりカード」に「大切にしたい考え」を表現するという活動を通して、本時を貫く「自分事の問い」に対する答えを明らかにするとともに、「注意を聞くだけではなく、もっと注意を大切に受け入れよう」というような自分なりの答えをもつことになる。その後、見付け出した「大切にしたい考え」を今後の生活に生かそうとする道徳的実践意欲を高めていくようにする。そのことは、「自分事の問い」を継続することとなり、新たな「自分事の問い」をもつことにつながる。
- 「高める」過程では、本時で「自分事の問い」をもち続けて学習してきたことを振り返り、そのことのよさを自分の考えの変容と絡めて実感することになる。また、「気付く」過程で活用したプレゼンテーションソフトを再度使用し、導入の時から心の変化について感じることができるようにする。

6 本 時

(1) 目 標 相手の注意を聞くことのよさを広い視点から考え、相手の注意を真摯に聞こうとする心情を育てる。

(2) 展 開 □は教師の言葉掛け □は予想される子どもの反応 □は「自分事の問い」 ◆は重点評価項目 ☆はICT活用の留意点

過程	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導
(分)	1 人の注意を聞くことができなかった経験について話し合う。 親や友達の注意を聞くことができなかったのはどんな時ですか。それはなぜできなかったのですか。	☆ 電子黒板で本時に関する経験場面のアニメーションを視聴させることで、学級で起こる身近な問題の提示を行い、注意を聞くことができていない姿をイメージできるようにする。
気 付 く (5)	・遊ぶ前に宿題をしていなかった。 ・面倒だったから。 注意を聞くためには、どんな考えが必要なのだろう。	○ 実態調査を基に自分自身の経験を見つめさせることで、本時を貫く「自分事の問い」をもつことができるようにする。
	もっとよくちゅういをきくために「大切にしたい考え」は何だろう。	○ めあての中に「深める」過程で扱う「大切にしたい考え」を入れることで、学習に見通しがもてるようにする。
	2 資料「どっきりしたこと」を読んで、けんとみくの気持ちを中心に話し合う。	○ 紙芝居で資料を提示することで、資料のあらすじを共感的につかみ、自分と主人公との差異を見付けやすくすることができるようにする。その後、感想を出し合う活動を設定することで、話し合う場面の焦点化を図れるようにする。
見 つ め る (25)	(1) けんとみく、男の人の言動や心情について感想を出し合う。 (2) 交差点で、信号が青になるのを待つけんとみくの気持ちについて話し合う。 信号が青になるのを待つけんとみくは、どんなことを考えていたでしょう。 ・ 早く子ども祭りに行きたい。 ・ 信号が早く青になってほしい。 ・ 遅れたら嫌だ。 ・ 早くゲームや買い物をしたい。 (3) 交差点で男の人から注意をされたけんとみくの気持ちについて話し合う。 男の人から注意を受けた時のけんとみくはどんなことを考えていたでしょう。 ・ うるさいな。 ・ 少しくらい大丈夫だ。 ・ 早く行きたい。 ・ 注意を聞き流そう。 ・ 今は注意を聞きたくない。 ・ 注意は気にならない。 (4) どっきりしたことを思い出し、ゆっくり歩く時のけんやみくの気持ちについて話し合う。 どっきりしたことを思い出し、ゆっくり歩いているけんとみくはどんなことを考えたでしょう。	○ 役割演技を取り入れることで、男の人から注意を受けたときのけんとみくの気持ちに共感できるようにする。
	対自 ・ 男の人の注意を聞かなかったらどうなっていただろう。 ・ きちんと聞こう。 対周 ・ すぐに言うことを聞けばよかった。 ・ おじさん注意をしてくれてありがとう。	○ 「自分づくりカード」に表れた子どもの考えを、二つの視点〔対自分、対周囲（対他者・対社会）〕で教師が分類することで、子どもたちが友達の考えとの差異や共通点をつかんだり、大切だと思う考えを焦点化したりできるようにする。
深 め る (10)	3 自分を見つめ、注意を聞くための「大切にしたい考え」を見付け出す。 これからあなたが注意を聞くために「大切にしたい考え」はどんな考えですか。	○ 「自分づくりカード」を活用したペア学習を取り入れることで、自分の考えに自信をもったり、友達の考えのよさに気付いたりすることができるようにする。
高 め る (5)	ぼくはこれから、「しっかりと相手の注意を聞こう」という考えを大切にしたいです。 わたしは、「注意をしてくれた人が間違っていることを正してくれる」という考えを大切にしたいです。	☆ 電子黒板でアニメーションを視聴させ、学級で起こる身近な問題の提示を行い、今後どのように注意を聞けるか、導入の時の変化に気付くことができるようにする。
	4 プレゼンテーションソフトでアニメーションを再度視聴し、心の変化に気付く。	◆ 相手の注意を聞くことの意義についての考えを広げているか。 【「自分づくりカード」・発言】

